



鹿児島県 児童クラブ連絡協議会

連絡先

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久2105-1

TEL/FAX 0995-45-7800

<http://m-jidouclub.com/krijidouren-index.htm>



携帯サイトです。ブックマークに登録を！

ニュース

No. 46

2016年4月25日

1月26日 鹿児島県(男女共同参加課少子化対策係)への要望と意見交換会を行いました ～「放課後児童クラブの運営指針」に基づき、公的な責任による学童保育の量的・質的拡充(制度拡充と財政措置の大幅増額)を求める～

1月26日、県連絡会として、鹿児島県県民生活局青少年男女共同参画課に対して、公的な責任による学童保育の量的・質的拡充(制度拡充と財政措置の大幅増額)を求める要望書及び意見交換会を開催しました。

県からは堀対策監・萩原係長・田島専門員が対応、県連からは加来会長はじめ、有川・中村・田間・続の5名が参加しました。

本県内では、2015年5月現在、学童保育の実施状況は19市・20町・1村で435か所(前年比34増)、入所児童数は1万6,079人(前年比1,673人増)となっています。共働き家庭の増などを背景に、本県でも児童クラブ(学童保育)の設置数は年々増加していますが、本県における学童保育の現状は、全国学童保育連絡協議会調査による設置率平均が12.4% (1校区に複数の学童保育があり。)であるのに対して、鹿児島県の設置率は82.4%で、最下位に属します。

必要とされる場所に学童保育ができていない実態があり、行政による助成や施策の違いもあって地域格差も大きいものがあります。

【主要要望事項】

- ①新制度施行に伴う市町村の事業計画の検証と見直しの検討。
- ②現任者研修の内容・企画についての見直し。
- ③小学校の統廃合が進んでいるので、小規模校の学童保育開設・維持に必要な財政措置を県単独事業として予算化すること。
- ④放課後子供教室事業と学童保育について、「同じ場所で同じ職員が子どもたちと一緒にして」行う「一体化」ではなく、それぞれの事業として実施されること。

【県の回答】

- ▼市町村には必要に応じて助言していく。
- ▼現任研修は、県連絡会の意見も踏まえ体系だった(初任研・中堅者研)ものにしていくための予算要求をしている。
- ▼認定資格研修は、検討委員会を開催する。

※当日は、事前に自民党県議団「子供・子育て環境対策調査部会」との懇談会をもち、県の担当課との意見交換会にも寺田洋一会長と郷原拓男副会長に同席いただきました。

3月13日の研修会は、53クラブ110名強の参加をいただきました

子ども理解…子どもを良く観察すること、その子の置かれた状況、気持ちを知ることの大切さを学ぶ

児童クラブ県連絡会の第9回「新年度を控えての指導員&学童保育研修会」を県青少年会館にて開催しました。

国の子ども・子育て支援新制度スタート2年目を迎え、運営指針第2章にある「子どもの発達」を理解するための基調講演を踏まえて、運営指針第3章にある「児童クラブにおける育成支援の内容」の基礎講座と日々の記録を基礎とする「通信・クラブだより」の実践研修講座(分科会)に、県内から100名を超える学童保育の指導員、学童関係者の参加をいただきました。

午後4時まで丸1日の研修会に奄美大島や種子島からも参加がありました。

【基調講演のアンケートから】

・白・黒をつける裁判官になってはいないか? プロ

の黒子になることが大切、遊ばせるのではなく、遊ぶ心をふくらませる(準備する)。センスのいい(生き方)大人になる。

・指導員は“いい超黒子”になる! この言葉が一番印象に残りました。

【分科会のアンケートから】

・(基礎講座)他のクラブでも様々な悩みがあり、それについてみんなで話し合いができて安心しました。

・(実践講座)通信、日誌などの毎日の記録がどれだけ大切なかを改めて考えた貴重な研修でした。載せるにあたっての注意することなど、他のクラブのものをみせてもらったり、話しをすることでとても勉強になりました。

・(理論講座)言葉のみがくことがとても重要だと感じました。カウンセリング(面接)などのポイントも分かりやすく教えてもらえました。



▼当日の分科会の報告は、4ページに掲載しています。参加者アンケートは2~3ページに掲載しています。
▼当日配布のパンフレットは、HPに掲載しています。
<http://m-jidouclub.com/jidousub1.htm>

6月12日(日) 県連絡会総会と記念講演会開催

○日時 2016年6月12日(日) 13:30~16:30

○会場 鹿児島市内を予定

◆第10回県連総会 13:30~14:00

◆総会記念講演会 14:30~16:30

講師 河野 伸枝さん(全国学童保育連絡協議会 埼玉県原市場学童保育所 かたくりクラブ指導員)

テーマ: 保護者といっしょに子育てするために(仮)

改めて、案内の文書は送付致します。

第41回全国学童保育指導員学校(2016年5月29日)

九州会場の開催期日は、未定です!

今年度開催予定の指導員学校・九州会場は、2016年4月14日及び4月16日に発生した熊本地震(震度7、震度6といった巨大地震)がいまも百数十回を超える余震が続いていることから、5月開催は見送ることになりました。

あらためて、期日が確定しだいご連絡致します。

■基調講演	11:00 ~ 12:30
「子どもの発達と心理（幼児期・学童期） —保育・教育に活かすカウンセリング技法の理論と実践について— 講師：熊谷 良子（くまがや りょうこ）さん／（カウンセラー／メンタルケア心理士／保育士）」	
◆研修講座&分科会	13:30 ~ 15:50
1, 基礎講座	指導員の仕事と役割（毎日、年間の生活をどうつくるか） 【初任者 1～3年未満対象】
2, 実践講座	通信・クラブだより～日々の記録を基礎に～通信（クラブだより）を出 す意味、なにをどう書くのか、書くうえで大切にしていること、配慮し ている点は？ ※実際に通信（クラブだより）をつかって検討します。 【中堅者 3年以上対象】
3, 理論講座	子どもの成長・発達とは —保育・教育に活かすカウンセリング技法の理論と実践 講師：熊谷良子さん／カウンセラー・保育士 宮崎市在住 【リーダー・主任クラス 5年以上対象】
まとめ	15:50 ~ 16:00



■基調講演（熊谷良子さんの講演）は、 いかがでしたか？

- ・自閉症について、詳しく知ることができました。また、年齢別の子どもの育ち方を学ぶことができ、「ああ、確かに学童の子でこんな子がいるなあ」と思うことも多々ありました。実践記録の大事さを改めて学びました。
- ・色々な事例を出していただけながら、日常の中で自分自身も不思議に思っていること…「そうなんだ…」と思い、解決していく上での糸口（ヒント）になりました。学童の中でも、困り感がある子かな？と色々な勉強や日常生活の仕方など、声かけの仕方も教えていただきありがたいでした。
- ・日常の中でのことを元に話しをしていただき、とても勉強になりました。
- ・子どもの発達と心理を実践的な話しで分かりやすかった。寄り添う事の大切さを考えさせられました。
- ・保育の原点（乳・幼）で勉強になりました。児童期の実例（1年～3年生まで）指導員と遊びの中でのトラブル、体験・失敗談などもっと聞きたかったです。
- ・子どもたちの発達について、もう一度考える機会になりました。できるなら、自閉症・スペクトラムについてもっと詳しく聞きたかったと思いました。
- ・子どもを良く観察することで、その子の置かれた状況、気持ちを知ることが大切だなと思いました。
- ・知識は、いっぱい知っていても活用できない子が多いというのは、本当にその通りだと思いました。なので、今回の講演で聞いたことをもとに今後の学童に生かしていきたいと思います。
- ・白・黒をつける裁判官になってはいないか？ プロの黒子になることが大切、遊ばせるのではなく、遊ぶ心をふくらませる（準備する）。センスのいい（生き方）大人になる。
- ・指導員は“いい超黒子”になる！ この言葉が一番印象に残りました。「自閉症スペクトラム」については、しっかり学びたいと思います。「傾聴」って、大事ですね。

- ・“見通し”を伝えるのは昨日したばかりでした。いつもとちがうことをすることになり、その子には順番に伝えてみました。普段は変化すると「嫌だ！」「なんでよ！」と言う子ですが、順番に伝えると「うん、うん」と返事をしてくれ、その後の行動も他の子たちとできていました。
- ・やっちはいけない、言っちはいけない事が分かりました。その後、じゃあどうすれば良いのか？ くわしく聞きたかったです。
- ・色々難しい話が多かったですが、自分なりに新しい解釈や視点を得ることができたと思います。最近になってから、気になる子どもの行動や自分から子どもに話しを聴いたりして、記録をしたりと以前よりも強化したメモを作り始めたばかりだったので、自信が持てました。
- ・子どもたちの行動が問題行動なのか、発達段階なのか、「イヤ！」ということばの意味など、今の私たちに必要なことばかりで、アツという間に時間が過ぎていました。参考になることばかりでしたが、カウンセリングの技法というところまで、もう少し詳しくききたかったです。
- ・知っていて子どもたちと接すると、知らずにいることは大きな差があるということが分かりました。
- ・講演会に参加するたびに反省したり、そつだ、そつだと…自分を見直すために勉強にもなり、4月からの良きスタートになりそうです。
- ・少人数の子どもたちの中で過ごす、6歳～9歳の子どもたちへの日々の対応について、考える時間となりました。問題行動と見るか、子どもの発達上的一面（その子どもを理解した上で）と見るかで、対応が異なるということ、まだまだ実践できていないと反省します。あそびを見守り、あそびに入って、いろいろ教えられることがあり、先生のお話の中でも“子どもの思い”“子どもの見え方”を考えさせられました。

- ・大人が決めたルールばかりだったなと反省でした。9、10歳の子もたちの行動、考えが実際に事例を聞きながら「あーそういうことか」とわかった。
- ・子ども発達と心理は、乳幼児の発達と青年期の意識構造を改めて、考えたり、もう少し聞きたいと思っていました。実践につながる講演をありがとうございました。
- ・自閉症スペクトラムなどについて、再確認できたのでよかったです。質的転換期について、別なところで少しだけ聞いたりしていたので、具体的に示してもらえて理解することができました。
- ・「子どもの発達と心理」は難しい言葉がたくさん出ていましたが、先生のわかりやすい話でとても勉強になりました。
- ・聞く回数が増えるたびに色々なことがつながって、自分のスキルアップにつながります。子ども、保護者、保育士…どの視点からもわかりやすく伝えてもらえるので、実践を通して気づき、なるほどと感心し、また疑点が出てきての繰り返しできて、本当にありがたいです。自分がしていかないといけないことが、明確になった講演でした。
- ・特に印象に残っているのが、困ったことがあったときにその子のことを何も分かってなかったな、と感じる場面が日々あるので、書くこと＝実践しようと思いました。書くこと＝聞く、見る力がつくとのことだったので…やっとな解決策が見つかったと思いました。理解した上で話しを聞くこと、その子のささいな変化に気づくことができなかったもので…
- よく話を聞くときに、白・黒つけてしまっていたので、「白と黒を決める人にならない」ってお話しがとても心に響きました。もう少し時間があれば『決めつけで話しを聞かないこと、話しを聴けるようになること』についての先生の話を聞きたかったです。私自身がコミュニケーションすることが苦手だと感じているので、話しの中でたくさんのヒントをいただいたような気がします。家に帰ってから、今日学んだことを振り返り自分のものにします！！



【鹿屋児童クラブ連絡会 2015年度第9回新年度を控えての指導員・学童保育研修会 アンケート・要旨】

・市町村名 薩摩川内市(5) 鹿屋市(4) 霧島市(3・4) 日置市(4) 始良市(9) 指宿市(2) 垂水市(3)
志布志市(1) 曾於市(2) 南さつま市(4) 南九州市(4) 西之表市(1) 肝付町(1) 錦江町(1)
徳之島町(1) 初めて参加した(3・4) 参加したことがある(3・9)

- ・熊谷先生の講演とても楽しく、お話しの中も「うんうん」「そうそう」という思うことばかりでした。「はっ」としたことは、もめ事が起きているときはどうすればいいのか、決めるのではなくお互いの言い分(理由)を聞けるようにすることが大切という言葉です。私たちはいつのまにか裁判官になってしまっていました。熊谷先生のように超一流の黒子になれるように日々努力していきたいと思いました。
- ・今の子どもたちの発達、成長段階がよく分かりました。学校後の短い時間の中で、毎日慌ただしく子どもたちの心の声に気付いてあげられないことが多いことに気がきました。また、自分自身がセンスのある大人であるよう努力していきたいです。
- ・子どもたちへの関わりを改めて大切なことだと確認でき、子どもの「いや」を変換できる、言葉の裏側が読める、子どもに近づける関わりができたと思いました。
- ・何回も繰り返し学び、身につけたいと思う内容でした。学童の指導員を専門職として位置づけ、勤務時間や待遇などを考えればいけないと思う。(時間給で雇われていては、子どものことをまとめて、計画を立てて…など、やれないと思う)
- ・あまり子どもに対して、良くない声かけ(根拠のない大丈夫等)をしていて、改めて言葉の大切さに気がきました。一流の黒子になれるように、これからも頑張っていきたいです。
- ・なかなかカウンセリングの先生のお話を聞く機会がないので、貴重なお話しでした。少し難しいところもありましたが、指導員としての勉強になりました。
- ・具体的に教えていただき、共感したり「それってー」と思うことが多々あり、もっと知りたいと思いました。仕事をする上で、知らなすぎる自分がいて反省です。カウンセリング上で、経験等のお話しも楽しく聴かせてもらいました。またの機会を楽しみにしています。
- ・初めての参加で難しいのかと思っていたら、そんなことはなく、噛みくだいて、細かく話していただき、楽しく参加できました。指導をするという感覚、仕事をしていると思いがらだったので、個々にはそれぞれの性格があるので、子どもたちのことを考えながら、話し方や態度を気をつけていきたい。改めて、子どもたちに対して、発言など考えさせられました。
- ・楽しく学ぶことができました。子どもの心に寄りそえ、共感する心を持ちたいです。「センスのいい大人」を求めます。(センスのいい生き方)をしている大人、とても良い表現だと思いました。よくわかりました。もっと時間かけて聞きたいと思います。

■今回の研修会講座&分科会で印象に残ったことは、どんなことですか？

- ・(基礎講座)それぞれの学童の先生方と色々な経験談など、困りごとなどお話しを聞けてとても良かったです。
- ・(基礎講座)各児童クラブで悩みは一緒なんだと感じました。おたよりの重要性を再認識しました。
- ・(基礎講座)色々な意見を聞き、参考になったので職場にもちかえり取り入れたい。自由あそび、子、親との接し方
- ・(基礎講座)小さい部屋で子どもたちを50~60名みている学童の話聞いて、安心して環境を整えることの大切さを理解することができました。
- ・(基礎講座)他のクラブでも様々な悩みがあり、それについてみんなで話し合いができて安心しました。
- ・(基礎講座)運営上の問題、現状などが聞けてよかった。何年にもわたって、ていねいに指導していただける方には頭が下がります。私も、全くの初心者ですが、少しずつ参加していこうと思います。
- ・(基礎講座)学童には「安心」が重要なことが、改めて知ることができました。ほかの学童の指導員さんとも話ができて、色々な学童の様子も知ることができました。思いを共感できるのは、良いことだと思いました。
- ・(基礎講座)私が勤めている学童は、保育園との連絡をしながらなので、幼稚園生まではよくても、小学生以降の子に対して、活動が簡単すぎるのかと思いつつ続けていたので、様々な考えや指導方法があり、すごく自分自身のため子どもたちのためにまだまだできることが多くあると思い、帰ってからここで学んだことを生かせるようにしたい。
- ・(基礎講座)今回の話しを聴いて、自分が思っているよりも、他の児童クラブの人たちの話を聞いて、もっとこうしたらなど、いろいろのことを学べました。これをもっともって学童にいかしていきたいです。
- ・(実践講座)毎月お便りを作成するとき、ああ、どうすれば保護者がみんな見てくれるだろう、と迷いながら探りながら作っていましたが、他の児童クラブのお便りを見ることができたことで、参考にしたい部分、直した方が良いか？と思う部分が少しずつずつが見えてきたように思います。早速、お便り作りですが、今日学んだことを少しでも活かせたらと思います。



- ・(実践講座)保育日誌と業務日誌とは別にした方がよいと感じました。通信は、自分たちも実践しているように子どもたちの様子が分かること、指導員とのかかわりを多くの乗せた方がよいと思いました。
- ・(実践講座)保育日誌、業務日誌は毎日書いているのですが、あまり通信を書いていませんでした。通信の大切さを学びました。何をどう書くかを具体的に、いろいろなクラブのお話しを聞くことができたので、よかった。
- ・(実践講座)通信、日誌などの毎日の記録がどれだけ大切なかを改めて考えた貴重な研修でした。載せるにあたっての注意することなど、他のクラブのものをみせてもらったり、話しをすることでとても勉強になりました。
- ・(実践講座)業務日誌に保育日誌も兼用させていたので、来年度からは別して保育日誌を充実させたいと思います。
- ・(実践講座)毎日の業務日誌、個別の保育日誌をしっかりと書くこと、書き方の実践は何をどう書くかなど参考になることが多かった。
- ・(理論講座)カウンセリングの先生に自分の今までの行動、言葉かけを全て否定されるようで、この講座を受講する前はあまり乗る気ではありませんでした。というのは、自分のプライドが傷つくと思ったからでしょうか。熊谷先生のお話はとても分かりやすく、「そうだ、そうだ」の連続!!「あーそうか、そうなんだ」「あの時のあの場面が、パーッとよみがえった!」この仕事に自信と誇りを持って、明日から子どもたちと元気に過ごせるような気がします。ありがとうございました。他の支援員にも聞かせてあげたかった!!是非再び講演会をお願いいたします。
- ・(理論講座)自分たちの声かけ、子どもたちに対することへの声かけ、子どもたちへの一流のクロコになり、子どもたちをより良く引き出せるか、カウンセリングに少しふれ、とても興味を持ちました。また、じっくり話しを聞きたいし、これからの良き指導力にもつながると思います。
- ・(理論講座)問題行動(言動)を「子どもの要求」は何かをしっかりとらせることが重要。一つのあそび…「あそび歴」でも、異なる学年ではないという見方は、子どもたちを見て感じているところです。その子にとって、学童という場が大切な居場所であると思っています。コミュニケーション能力をつけて、子どもにもっと話させる大人になれるよう努力しよう! ころとからだに気をつけつつ、自分を大切にすることも忘れずに!! 子どもたちと過ごす上での大切なことを教えていただきました。保護者への対応も日々話し合っています。

新年度を控えての指導員・学童保育研修会

◆各分科会の要旨と報告◆



基 礎 講 座



指導員の仕事と役割
(毎日、年間の生活をどうつくるか)
戸床 珠美さん/
高山児童クラブ 指導員

【内容】

1. 子どもたちが安心して過ごせる場所

- ・子どもたちの思いに寄り添い、つぶやきを聞いてあげる。一緒に悩み考える。
- ・障がいのある子どもも安心して、お互いが無理せず、一緒に過ごせるように環境を作ってあげる。伝えたいことを代弁してあげる。ルールを決める。

2. 保護者が安心して預けられる場所

- ・迎えの時の何気ない会話、全保護者と話しをしたい。会話は必要。
- ・月一回学童通信を出している。子どもの言葉を書く。

3. 指導員が安心して保育できる場所

ミーティングの時間を作り、心配なことや分からないことを話し合う。自分に意見を言ってくれる指導員に出会ってから、考え方が変わった。

【グループ討議】

▼指導歴10年の戸床さん、手探り状態から今に至るまでの話して始まり、上記の3項目のレジメに添って資料を使いながら30分の問題提起。時間にあった項目の数で、話しも聞きやすかったです。

▼質疑応答では、保育料や重い障がいをもつ子との付き合い方などの質問がありました。グループ討議は盛り上がり、アツという間に時間が過ぎました。
(^o^)/あめ・チョコは、皆さん、喜んでいました！

理 論 講 座



子どもの成長・発達とは
—保育・教育に活かす
カウンセリング技法の理論と実践—
講師：熊谷 良子さん
／宮崎カウンセリング&リカバリールーム

【内容】

1. カウンセリング技法の活用

〈実践〉が読みとれど、次ぎに活用できる方法。子どもからのメッセージ（何らかのメッセージを伝えようとしている）

表現する語彙の豊かさ、寄り添う言葉を持っているか。
喜びを表す言葉 ⇨ 言葉は使っていないと、**たくさん使ってほしい**
ポジティブな言葉 ⇨ だてこなくなる

- ・言葉や行動から、いろんな背景を読みとること。
- ・困った行動の時
すぐに注意するのではなく ⇨ 視点を変えてみる
物を投げる ⇨ ボールと箱を準備して、OKな投げ方をした後に投げてもいい物と、投げていけない物を伝える。

- ・問題があった時に、すぐに指導員に伝える傾向がある。子どもが自分で解決する力を育てる。
- ・自分を大事にできる人は、相手を大事にできる。人間は比較したときに、自信を無くしてしまう。⇨ 比較しない！
(大人にも子どもにもいえる)

※事例を示して進めていき、大変分かりやすかったです。

2. 参加者の反応など

みなさん、いきいきとした表情で、笑いもたくさん出ていた。充実した分科会でした。

実 践 講 座



通信・クラブだより
～日々の記録を基礎に～

通信（クラブだより）を出す意味、なにをどう書くのか、書くうえで大切にしていること、配慮している点は？

田間美沙緒さん／青葉児童クラブ 指導員

【内容】

1. 毎日の記録

- ・子どものことがはっきり見えてくる。
- ・子どもの様子、変化が分かる。読み返すことが必要！！
- ・子ども、保護者の会話等も書くべきである。
- ・子どもの日々の変化を他の指導員にも分かりやすいように記録
- ・何があったのか、指導員はどのように関わったのか、その後どうなったのか記録が必要。

保育日誌の必要性

保育日誌

※個人情報なので、保育日誌や業務日誌は別にした方がいい。

子どもに対し、様々な角度から心中を察してあげる。推察し、子どもの言葉が出るまで待つ。寄り添うことが大切です！

日誌の振り返り。

こうすればよかった…。こんなふうに言ってあげればよかったと反省することもある…。

2. 通信（クラブだより）

- ★子どものおもしろエピソードは、すぐにメモにとる。
- ★通信を書くベースとなるのが保育日誌です。
- ◎各クラブの通信をOHPで紹介。

3. 講師の話、レジメについて

- ・学童指導員として必要なこと、やらなければならない大切なこと等が学べた。
- ・改善すべき点も見えてきた。これでよかったんだ—と思う点もあった。
- ・学童指導員の立場での話して、子ども、保護者、同僚にどのように接していくべきか、どのような仕事にしていけるべきなのかな今後の参考になりました。

【グループ討議】

▼時間を感じることなく、学べたのでは？ アツという間に時間がきました。

▼グループ討議は、声が聞き取れないくらい、みんな盛り上がっていた。他学童の貴重な意見が聞けました。
(研修で“あめ”をいただいたのは初めて？ 元気が出ました(^o^))

お知らせ



全国運営委員会ニュース No.6 から
〈「一の支援の単位を構成する「児童の数」について〉

厚生労働省は、2016年1月19日と3月11日、自治体に向けて「放課後児童健全育成事業に係るQ&A(更新版)」を出しました【同封しました】。

- そのなかで、「児童数」のカウントについての考え方です。
- ◆「Q&A1」では、毎日利用する子どもを「継続して利用することを前提に申込みをした児童」と明記し、事後の利用実績などによらず、「あくまでも、登録時の利用希望日数を基に算出する」と述べています。「一時的に利用する児童」とは、「週のうち数日を利用することを前提に申込みをした児童」であることが示されています。国の補助金は「児童の数」にもとづいて算出されます。その際の「児童の数」についても、月の初日の登録実態を基準に、児童数を算出することが示されています。
- ◆「Q&A7」は児童が少ない平日またはその時間帯に「2つの放課後児童クラブ若しくは『支援の単位』を合同で一つの放課後児童クラブ若しくは『支援の単位』として運営することは可能である」と示しています。